



## 自ら掴む経営エッセンス！

(記事：いどばた稲毛) 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>

1/29 (火)

テーマ：『努力に勝るものなし』

出席22社22名  
(美浜19、他会2、非会員1)

講師：柏市沼南倫理法人会 井畑 博海 氏



Hiroumi Ihata

趣味をこんなに楽しそうに話せる井畑氏に、皆が憧れた。

父と一緒に自転車で通ったのを思い出す。早起きは、元々新聞配達で慣れていた。当時から食事の挨拶「天地の恵みと・・・」を家庭でも実践していたという。こうした少年時代の経験が、今の井畑氏に生きている。

毎朝4時になると、自然に目が覚める。今までは、「自分が子供の頃遊べなかったから、せめて子供が部活を始めるまでは一緒に遊んであげたい」と、子育てをしてきた。子供は伸び伸びと成長してくれて、長男が後継者となり、仕事ではまだまだもう少し自分が必要だが、「これからは自分のやりたいことをやろう。80歳までバイクに乗る。ニューヨークをハーレーに乗って走り回りたい」と、井畑氏は聴衆皆が憧れたほど、本当に楽しそうに夢を語ってくれた。

井畑氏は株式会社日宣の代表取締役、看板業だ。どのような仕事だろうか。

### 自分のやりたいことを抑えた少年時代

井畑氏は、太平洋戦争が勃発した昭和16年、8人兄弟の4番目として生まれた。博海の名には、「博識をもって大海をなせ」という両親の願いが込められている。まず少年時代を振り返る。

「母を困らせるようなことできなかった」。これが井畑氏の第一声だった。兄姉・妹の間に立ち、母の一番身近で家事を手伝いながら、新聞配達で家計を助けた。「自分のやりたいことは抑えてきた。本当はもっと遊びたかった」と話す。

こうした状況の中で、井畑氏は実践部に入会し、倫理を始める。小学校6年の夏休みだった。

### 「喜んで努力して、うまくいくのは当たり前のこと」

株式会社日宣の創業は、昭和44年。看板の字を書くということは、想像以上に大変な仕事だ。「たとえ字や絵の上手な人でも、小さい頃から始めることが大事で、10年は修行が必要な、日本の伝統技術。それも、昼間の勤務時間内だけやっている程度ではだめだ」と井畑氏は説明する。また、「どんな業種の方もお客様になるのが看板業の特徴。そのお客様の繁盛を真剣に考えて、意図を汲み取って、お客様に合った字をデザインする。繁盛しているお店の看板は、やっぱり字が笑っている」という。

昭和51年には沼南に第一工場と住居を建て、車も趣味のオートバイも買ったが、最初はローンの返済も大変だった。だが会社が大きく発展したのは、この時だった。

当時は社員の給料が5万円、自分の給料だって25万円がやっとの時に、銀行担当者が簡単だと言わんばかりに、「社長、100万円とればいいじゃない？やればできるよ」と言った。「いきなり100万にできるか」と思ったが、やってみたらできたという。ローンは5年で全て返した。井畑氏がすごいのは、「喜んで努力して、うまくいくのは当たり前のこと。大したことではない」と、感じていることだ。

### 「災いには気持ちよく従うこと。夢は枕元に置けばかなう」

昨年の暮れに、愛犬のゴールデンレトリバーを散歩していたら、いつも会うおばあちゃんがいた。愛犬同士がけんかになり、犬に倒されたおばあちゃんは、元旦から1ヶ月入院。おばあちゃんは、きちんと首輪をつけていなかった。自分に非はない。

ところが、おばあちゃんから30万円の請求書がきた。話を聞くとおばあちゃんは、「でも私は辛い思いをしたの」と言って聞かない。「正月早々おもしろくないな」と思ったが、結局30万円を払った。すると1000万円の仕事もきた。「運命自招もあるけれど、災いが降りかかってきたら、気持ちよくそれに従うのが大事」という。

井畑氏は夢のかなえ方について、「枕元に置いて、寝る前も起床後も、欲しいなと眺めれば、それが手に入る」という。欲しいものが載った雑誌でも良いそうだ。最後に、「子供が良い方向にきているのも、倫理のおかげ。悪い部分がたまに出ても、人間らしくていい。楽しいことをたくさんやりながら、頑張りたい」と話してくれた。

次回 第863回MS！ 2/5 (火) 6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張 (043-297-7777)

テーマ：『人間取扱説明書と私』

講師：スーパーバイザー 藤本 定明 氏

できるできるやればできる！  
明るく楽しくなければ倫理じゃない！  
・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく